

経営比較分析表／団体全体（平成30年度決算）

高知県

【事業概要】

業務名 法適用	業種名 工業用水道事業	現在配水能力(合計)(m ³ /日) 56,736	類似団体区分 中規模	施設数 2	1日平均配水量(m ³) 16,801
資金不足比率(%) -	自己資本構成比率(%) 88.5	給水先事業所数 51	契約水量(m ³ /日) 26,872	管理者の情報 自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、類似団体平均値よりも低い水準で推移しているものの100%を超えており、累積欠損金もないことから、堅調な経営を維持しています。H28年度に減となっているのは、取水設備における河床止復旧工事の実施などにより修繕費が増加したためです。

流動比率は、100%を大幅に超えており、類似団体平均値よりも高い水準で推移しています。H30年度に大きく増となっているのは、設備の再整備のために電気事業会計から借入れを行ったことにより流動資産が大きく増加したためです。

料金回収率は、100%を超えており、給水に係る費用が給水収益で賄われています。H28年度に減となっているのは、取水設備における河床止復旧工事の実施などにより修繕費が増加したためです。

給水原価は、類似団体平均値を下回っていますが、機器の長寿命化等による設備投資の効率化や経費削減等の経営効率化の取組を行っていることによるものです。

施設利用率は、同水準で推移しているものの、給水区域における工事需要の低迷により類似団体平均値を下回っています。また、契約率についても、同理由により50%を下回る低い水準で推移しています。この状況を踏まえ、新規給水契約の獲得に向けた積極的な営業活動の継続及び設備のダウンサイジングの検討等効率的な経営に向けた取組が重要となっています。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値よりも低い数値を示していますが、2つの事業を個別にみると、鏡川工水（S41年度一部給水開始）は約70%、香南工水（H24年度一部給水開始）では約23%となっており、鏡川工水の保有資産については、その多くが法定耐用年数に近づいています。

管路経年化率についても個別にみると、香南工水の管路は、給水開始から日が浅く法定耐用年数を経過したものではありませんが、鏡川工水の管路では、約87%と類似団体平均値を大きく上回っており、その多くが法定耐用年数を経過しているものの、管路の更新計画策定までは至っておりません。

今後は、施設の老朽化への対応に加え、南海トラフ地震へ備えるため、H30年度策定の経営戦略に基づき、管路の更新・耐震化を順次進めてまいります。

全体総括

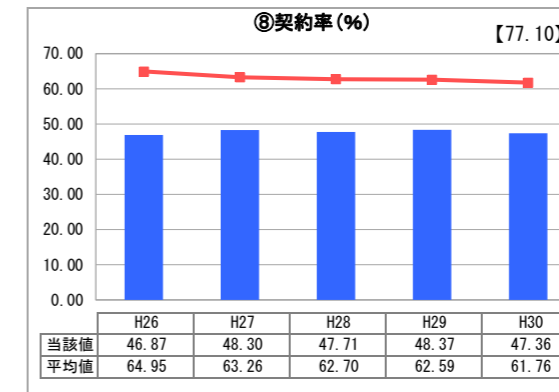
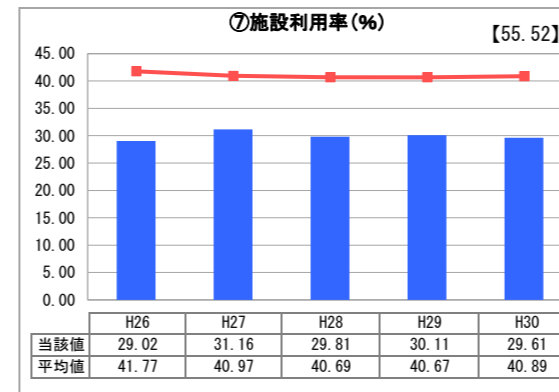
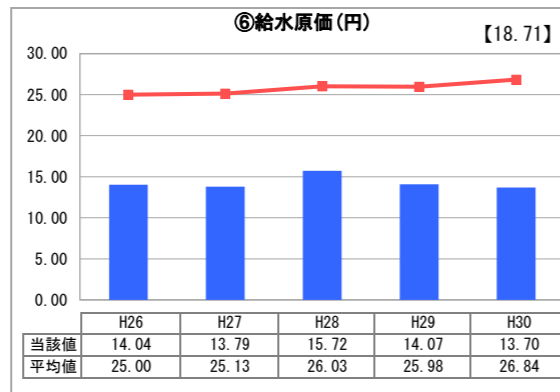
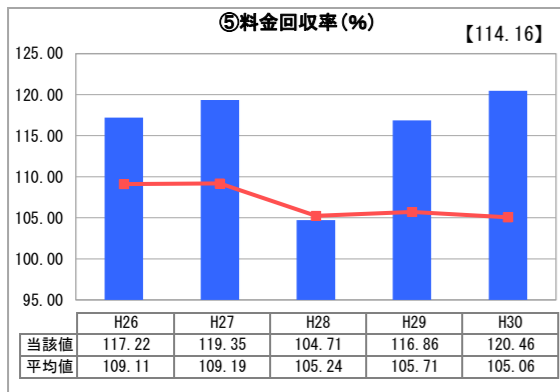
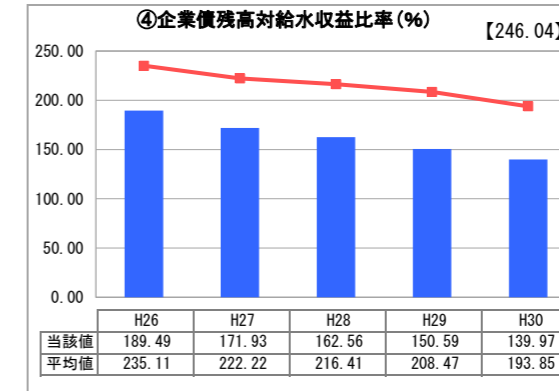
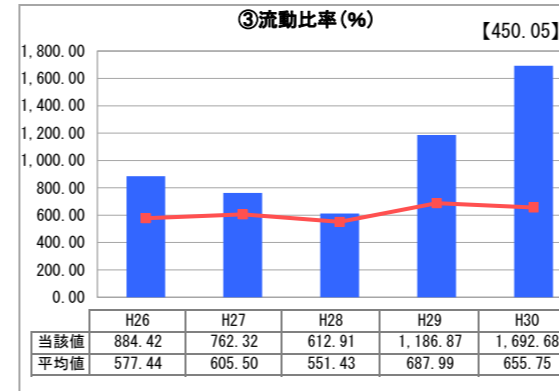
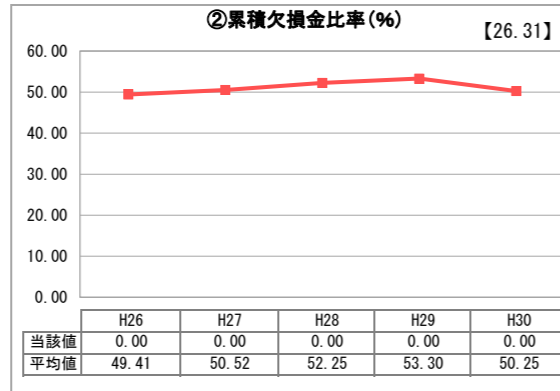
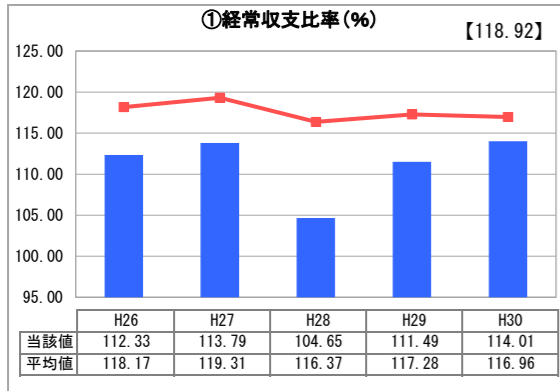
工水事業の経営状況については、工業用水の適切な料金による安定供給を継続すべく、経費削減や業務の効率化などに努めており、全体的には健全な経営が行えています。

鏡川工水では、施設の老朽化対策及び耐震化に向けた施設の修繕・改良を計画的に実施していきます。また、給水量増加に向けた取組を継続するとともに、更なる事業の効率化を図るためダウンサイジング等の検討を進めてまいります。

また、一部の利用にとどまっていた香南工水は、R元年度に香南市の事業と統合し、R元年12月から本格稼働を開始しました。

工水事業では、今後も、経営の効率化と施設の適切な維持管理に努めるとともに、H30年度に策定した経営戦略に基づく取組の推進により、引き続き健全な経営が行えるよう取り組んでまいります。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

